

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成24年10月8日（月）～10月14日（日）〔平成24年第41週〕の感染症発生状況

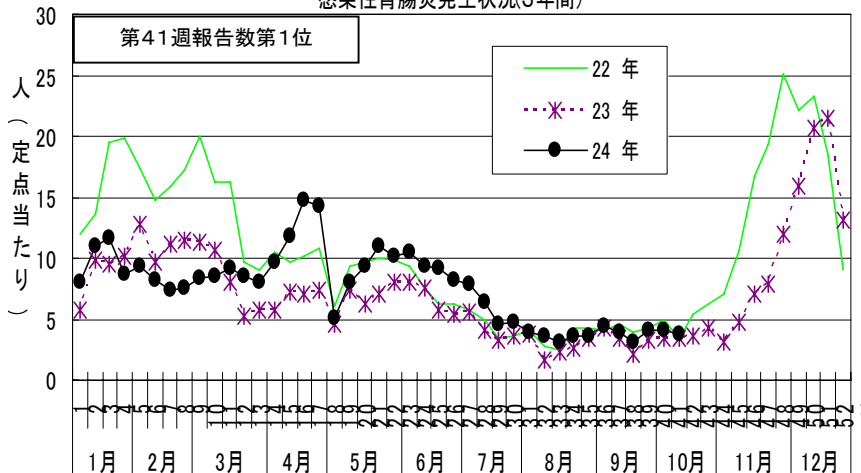
第41週で患者報告数の多かった疾病は、1)感染性胃腸炎 2)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎・手足口病・水痘でした。

感染性胃腸炎は定点当たり3.73人と前週（4.15）より患者報告数は減少し、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。

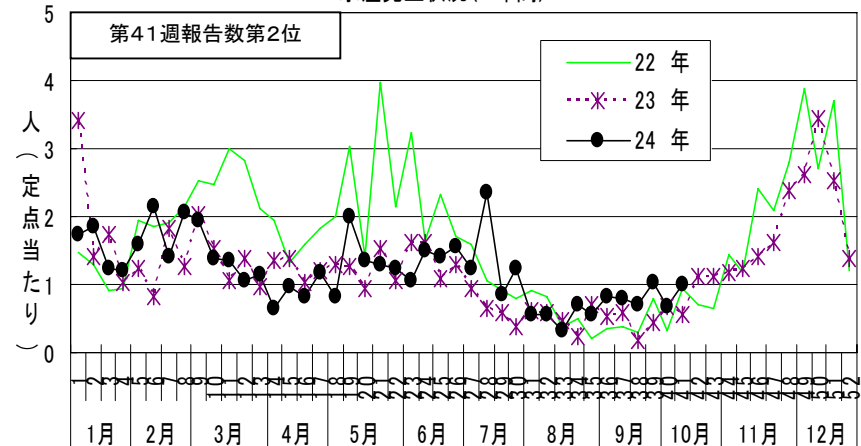
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎及び手足口病についてはほぼ例年並みのレベルで推移していますが、水痘は例年をやや上回るレベルで推移しています。

全国的にマイコプラズマ肺炎の報告が多く、平成11年のデータ収集開始以降、過去最多のペースで推移していますので、冬季に向けて注意する必要があります。

感染性胃腸炎発生状況(3年間)



水痘発生状況(3年間)



過去最多の流行に注意！！～マイコプラズマ肺炎～

全国的に、マイコプラズマ肺炎の報告が多く、平成11年のデータ収集開始以降、過去最多のペースで推移しています（右下グラフ参照）。川崎市においても、例年に比べて非常に高いレベルで推移しているため、14歳以下の小児（全報告数の80%前後を占める）を中心に注意が必要です。

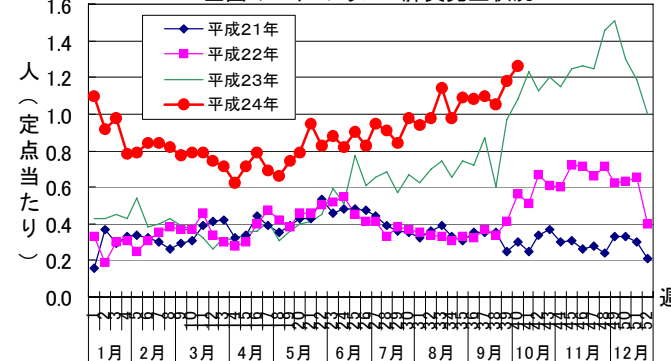
マイコプラズマ肺炎とは！？

マイコプラズマ肺炎は1年を通じて報告されますが、特に晩秋から早春にかけて報告が多くなります。

潜伏期間は通常2～3週間で、初発症状は発熱、全身倦怠感、頭痛などです。特徴的な症状である咳は、発症後3～5日から始まることが多く、解熱後も長期にわたって（3～4週間）持続します。

マイコプラズマ肺炎は、一般的に症状が軽いことが特徴とされていますが、特に小児では重症化することも多く、無菌性髄膜炎や脳炎を発症することがあるため、注意が必要です。

全国のマイコプラズマ肺炎発生状況



治療・予防方法

抗菌薬による治療が可能であり、一般的に予後は良好です。また、比較的軽症であるため自然に治癒することもあります。なお、予防接種がないため、予防としては、流行期の手洗い・うがい及び患者との濃厚な接触を避けることが大切です。